

“今この瞬間”の図書館をつくる —図書館の入口に立ち、問うてみる

吉岡 亜希子

本校図書館で一番の人気はめだかだ。「かわいい！癒やされる！」と水槽を覗き込み、水面にえさを落とす生徒の姿に目を細める。…と、ほっこりしている場合ではない。ここは図書館だ。とはいえ、肝心の本には手が伸びない。それどころか図書館になかなか足が向かない様子なのである。

現在勤める岡山県立玉野高等学校に昨年赴任してきた私は、新たな生徒との出会いを楽しみにしていた。だが、しかし。始業式を迎え新学期がスタートしても図書館に生徒はやって来なかった。1年生へのオリエンテーションもしたし、慌てて図書館だよりを発行してみたけれど、思ったような反応がなかった。4月も終わりに近づき新学期のドタバタもだいぶ落ち着き、ゴールデンウィーク前には本を読みたい生徒がいくらか来るだろうと踏んでいたのも、閑古鳥が鳴いたまま連休に突入してしまった。

図書館利用の減少

前任校は字があれば読んでしまうような生徒が多く、図書館だよりやポスターにも鋭く反応して図書館に足を運び、こちらが驚くくらいに様々なジャンルの本が毎日借り出されていた。学校が変われば生徒も借りられる本もまた変わる、そんなことは分かっていたものの、生徒がやって来ないという状況は全く想定していなかったので正直面食らった。

コロナによる影響も大きいと考えている。3年前、密を避けるようにと声高に言われ始めたあの頃。図書館でも座席数を減らしたり、短時間での利用を呼び掛けたりしてこちらから利用を減らしてしまった経緯があるが、そのまま今に至ってしまっている。また休校などの措置の裏で急速に進んだGIGAスクール構想により、ひとり1台端末を持つようになったことも大きい。これまで図書館にあるPCやタブレットを利用しながら、本や新聞などからも情報を得て行われていた調べ学習や探究活動が、端末だけで完結してしまうケースが増えたようだ。このふたつは周りの司書からも同様の声を聞く。多く

の学校で図書館を利用した授業や本の貸し出し数が減少傾向にあるようだ。

図書館リニューアル作戦開始

さて、そうはいつでもコロナのせいにしてこのままにしておくわけにはいかない。ゴールデンウィーク明け。ひと月通った図書館のドアを開いて改めてそこに立ち、全体を見渡して問うた。「魅力的な空間か？ 魅力的な本があるか？」。いくら言葉巧みに生徒を図書館に誘い込んでも、そこが魅力的な場所でなかったとしたら、そこにワクワクするような本との出会いがなかったら、その後の利用に繋がることはない。

そこからは早かった。全ての本を棚から下ろし書架を水拭き。本の表紙に纏っているほこりもすべて拭き上げた。空になった書架は押したり引いたりしながら移動させ、レイアウトを整えた。本は除籍をしながら、生徒の導線を考えた配置に並び替え、棚に戻した。館内の奥に眠っていたソファはまんがコーナーに移し、そこに雑誌架と新聞も持ってきて、ゆっくり読んでもらえるコーナーにした。大がかりな移動はこ



写真上：整備中の様子／写真下：整備後



校が海の近くにあることから、深い青緑をコンセプトカラーとしてサインを作り替え、コンセプトに合わないものや色褪せてしまったポスターなどはすべて取り除き、新しい掲示を作り直した。作業を始めてひと月半、ひとまず環境を整えることは終了。生徒からも「あれ？何か変わった！」「本屋さんみたいに見やすい！」とまずまずの声を聞くことができた。少人数ではあるが、まんがコーナーに置いたソファに座って読書をする生徒も見られるようになった。

GO TO トショカンキャンペーン

さて次はこの場所で素敵な本に巡り合わせるしかけ作り。書架を整理してできたスペースや書庫に眠っていた台などを使ってまずはテーマ展示のコーナーを設け、毎月5～6テーマずつ本を入れ替え、新着図書や雑誌コーナーも入り口から見えるところに設置し直した。いつ来ても新しい本との出会いのある「動いている」図書館を見せたかった。ただ館内までやって来なければこれも意味のない演出になってしまうのだが、教室から遠くはないものの生徒の導線上にない本校図書館には、やはり足が向かないようなのである。では次の手だ。

生徒の導線と図書館への導線との分かれ目に図書館の掲示板を置いてみる。館内展示の紹介や新着図書の情報を短いペースで貼り替えてここでも「動く図書館」を演出した。本に興味がなくとも立ち止まってもらえるように、その日の星座占いを毎日貼り替えた。貸し出しに大きく繋がったという実感はないが、掲示板の前で立ち止まっている生徒は時々見かけるようになった。あと一息！

次は図書館に生徒を誘い込む企画を考えた。読書月間として設けた11月に図書委員の生徒とともに準備をした「GO TO トショカンキャンペーン」である。全生徒に「読書月間共通クー本(PON)」を配布。クー本を持って図書館に来ると、輪投げにチャレンジできたり、しおりのプレゼントがもらえたりする。本を借りれば、さらにクー本をもらうこともできるという企画だった。一部の生徒は期間中繰り返し通って本を借りてくれた。ただ、たくさんの生徒が押し寄せて対応できなかつ

たらどうしようなどという心配は杞憂に終わってしまうことになった。

一度離れてしまった利用者を

取り戻すことはとても難しいことだと実感する。また、ここのところ高校生の生活スタイルは大きく変化し、読書どころかテレビも見ないという生徒が多い。生徒の多くはコロコロと流行の入れ替わるSNSやYouTubeの閲覧に多くの時間を捧げ、そこから情報を得ているようだ。



図書館という空間と生徒を繋ぐ

最近、空間演出コンサルタントである尼川ゆら氏の講演を聴く機会があった。「図書館空間を演出する～利用者を思い描いて、つなげる～」と題されたその講演では具体例を挙げながら、館内からマイナス要素を取り除くこと、コンセプトカラーを決めアクセントカラーを効果的に使いながら情報を伝えること、空間に流れをつくることなどについてご教授いただいた。ここまでやってきたことに間違いはなかったと確認することができた一方、やはり利用者像を掴みきれていないのだろうという思いに至った。当然のごとく生徒は毎年変わり、最近は特に社会や流行の変化もめまぐるしい。そんな中タイミング良く生徒の心を掴むような演出ができていないのではないかと、空間と生徒を繋ぐアクションがうまくできていないのではないかと思う。「高校生」と一括りに見るのではなく、本校の生徒や地域の特性、社会の流行などを見極め、伝えたい情報を精査し、働きかけたい相手をイメージしながら演出するということを改めて丁寧にスピーディーに行わなければいけないと実感した。

ひと通り館内を整備してから1年以上が経過した。そのとき新鮮だったものももしかするとマイナス要素に変化しているかもしれない。またあのように図書館の入口に立ち、問うてみよう。きっとやるべきことはまだまだたくさんあるのだと思う。(よしおか あきこ:岡山県立玉野高等学校)

「BOOKMARK」の8年間

— これがお勧め、いま最強の17冊

金原 瑞人

この冊子ができるにいたった経緯を書こうかと思ったのですが、そんなことは、この冊子を手にとった方にはどうでもいいような気がしてきたので、やめます。

この冊子は、最近の翻訳小説の中で、特にお勧めのものを選んで紹介したものです。紹介は、それぞれ訳者の方にお願ひしました。

紹介を読んで、おもしろそうだなと思ったら、ぜひ作品を読んでみてください。

きっと、びっくりするほど、世界が広がります。これが第1号です。2号は出るのか？

たぶん出ると思います。できれば、季刊で出していきたいねと、企画編集の3人で話しているところです。

こんな序文を載せて、この小冊子「BOOKMARK」が誕生したのが2015年。12号までは年に4回発行していたのですが、さすがに疲れてきて、その後、年2回にして19号が出たのが2021年11月。

各号の内容は次の通りです。

1号「これがお勧め、いま最強の17冊」、現代青春小説の特集

2号「本に感動、映画に感激」、原作もおもしろい、映画もおもしろい作品の特集

3号「まだファンタジー？ ううん、もっとファンタジー！」、ファンタジーの特集

4号「えっ、英語圏の本が1冊もない!？」、英語圏以外の本特集

5号「過去の物語が未来を語る」、歴史物の特集

6号「明日が語る今日の世界」、SFの特集

7号「眠れない夜へ、ようこそ」、ミステリ・ホラー特集

8号「やっぱり新訳！」、新訳特集

9号「顔が好き」、装幀特集

10号「わたしはわたし、ぼくはぼく」、LGBT特集

11号「Listen to Books!」、音楽特集

12号「これ、忘れてない?」、戦争特集

13号「絵+字で、無敵!」、グラフィックノベル特集

14号「Against!」、ノーということ。

15号「Be Short!」、短編集特集

16号「Stranger Than Fiction?」、ノンフィクション特集

17号「Books on Books」、本についての本特集

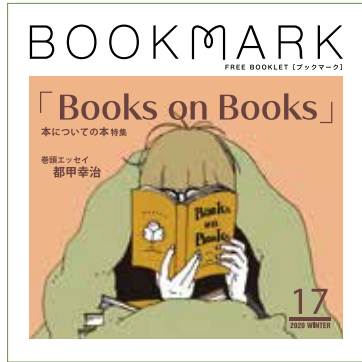
18号「Other Voices, Other Places」、英語圏以外の本特集2

19号「Fat but/and Fun」、分厚い本の特集
(巻頭エッセイ執筆者は、①江國香織、②ひこ・田中、③松岡佑子、④東山彰良、⑤深緑野分、⑥星野智幸、⑦恒川光太郎、⑧町田康、⑨川名潤、⑩松田青子、⑪村上春樹、⑫佐藤亜紀、⑬小野耕生、⑭あさのあつこ、⑮宮内悠介、⑯プレイディみかこ、⑰都甲幸治、⑱多和田葉子、⑲桜庭一樹のみなさんです)。

さて、20号はどんなテーマにしよう……と、共同編集者の三辺律子さんと話していたところ、ロシアがウクライナに侵攻を始めました。しばらく呆然としていたのですが、そのうち、「BOOKMARK」で何かできないか考え、特別号を出そうということになりました。今回は翻訳家ではなく、日本の作家さんに原稿をお願いすることにして、次のような依頼文を考えました。

「BOOKMARK」は海外の翻訳作品の紹介冊子で、とくに若者に読んでもらいたい作品を中心に取り上げてきたのですが、今回は特別に、日本の作家さんに作品をひとつ（自作でもほかの方の作品でも、日本物でも翻訳物でも、小説でも詩歌でも、絵本でも写真集でも、また戦争に関係のない本でも）取り上げていただき、それにかからめて戦争に関するエッセイをお願いすることにしました。

いうまでもなくロシアのウクライナ侵攻に触発された特別号です。とはいえ、ロシアが悪い、プーチンはひどいということではなく、とにか



く「戦争」について考えるための冊子にしたいと思っています。

「日本の作家さん」と書きましたが、詩人、歌人、ジャーナリスト、装丁家などの方にもお願ひしました。そして29名の方が、締め切りまで一ヶ月ないというのに、原稿を寄せてくださいました。この特別号は9000部作りしました。寄稿して下さったのは次の方々です。

青山七恵、あさのあつこ、伊藤比呂美、江國香織、小野耕生、金井真紀、川名潤、小手鞠るい、桜庭一樹、高階紀一、恒川光太郎、都甲幸治、西島伝法、長倉洋海、中脇初枝、梨屋アリエ、東直子、東山彰良、ひこ・田中、深緑野分、藤野可織、文月悠光、プレイディみかこ、星野智幸、穂村弘、町田康、松田青

子、宮内悠介、森絵都。

どのエッセイもそれぞれの個性と思いと切実さがにじんでいて、ひとつ、またひとつと原稿が送られてくるたびに胸が熱くなりました。

そしていま、ようやく20号に取りかかったところです。今回は、詩集や詩の形の小説の特集で、ほぼラインナップは決まっています。来年の初めくらいには出す予定です。どうぞ、お楽しみに。

まるで総決算みたいな文章になりましたが、「BOOKMARK」も20号+特別号で、そろそろひと区切りかなという気がしています。

(かねはら みずひと：翻訳家)

(「BOOKMARK」のバックナンバーはすべて、金原隼人のHPで読むことができます)

→ <https://kanehara.jp/bookmark>

DMかたろく

レファレンスから選書まで幅広くご利用いただけます

スポーツ・健康科学書総目録

最新版 2023 A5判/150頁/頒価本体286円+税

- ◆115社の約1,600点を紹介。巻末に掲載出版社名簿。
- ◆総記・健康科学・スポーツ・関連雑誌の4分類に大別。中分類19項目(辞典、資料・報告、健康科学一般、健康、保健、福祉、体育、スポーツ一般・オリンピック、陸上競技、水泳・マリンスポーツ、体操、球技、格闘技、アウトドア、登山・山岳、ダンス、冬季スポーツ、その他のスポーツ、レクリエーション・ゲーム)。さらに細分類して適書選択の便を図っています。各書目ISBNコード付。読者対象を表示。
- ◆新刊書名索引付。
- ◆叢書、講座類の一括購入に便利なシリーズ索引付。
- ◆書店様にてお取り寄せ出来ます。

スポーツ・保健体育書目録刊行会

ビジュアル大図鑑 中国の歴史

圧倒的ビジュアルで探る!



紹介動画
はコチラ



「中国の歴史」決定版!

DK社 編

定価：6930円(税込) 978-4-487-81441-1

東京書籍

〒114-8524 東京都北区編船2-17-1
TEL.03-5390-7531 FAX.03-5390-7538
<https://www.tokyo-shoseki.co.jp>

誰にでも読みやすく、2冊で日本史の全体像を把握できる!

伊藤之雄
藤田覚
久留島典子
大津透

もういちど読みとおす
山川新日本史

2022年8月刊行
定価・各1,980円(税込)

高等学校の教科書『新日本史(改訂版)』をベースに、一般の読者を対象として、時代像をとらえやすく叙述。さらに、時代の理解の助けとなるようなコラムを挿入。



Q 山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

日本視覚学会 編集



■ 視覚研究の基本と応用を1冊で!
■ 約80のキーワードについて解説。
■ 見開き完結でわかりやすい記述。
■ 豊富なカラー図版で理解しやすく!

B5版 368頁 オールカラー
定価 13,200円 (本体 12,000円)
ISBN978-4-254-10294-9 C3540

朝倉書店 〒112-8707 東京都新宿区新小川町6-29
TEL 03-3260-7631

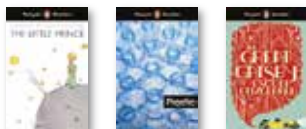
株式会社 三善

PENGUIN社の多読教材
PENGUIN READERS

人気の古典・フィクション・ノンフィクションタイトルを英語学習者向けにレベリングしたリーダー 全8レベル



セット販売 ① 60冊 SET A
② 60冊 SET B **NEW**
税込 各¥59,400 (本体各¥54,000)



Miyoshi 〒167-0032 東京都杉並区天沼2-2-3
TEL:03-3398-9163 FAX:03-3398-9170

人類**3000**年の歴史において、世界各地で勃発した**144**の戦場を詳述!

DK**地図**と**タイムライン**でわかる
戦争の世界史
大図鑑 **BATTLES**
MAP BY MAP

ピーター・スノウ [序文] フィリップ・セイビン [監修]
辻元よしふみ [監訳] 吉嶺英美 / 府川由美恵 / 花田知恵 [訳]

◎ 体裁: B4変形 / 上製 288頁 / オールカラー
◎ 定価: 7,700円 (税込)
ISBN 978-4-309-22851-8



河出書房新社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2
www.kawade.co.jp/

② **人権の世界史**
P.N.スタインズ 著 上杉 忍訳 352頁 3,520円

① **戦争の世界史**
M.S.ナイバーク 著 稲野 強訳 228頁 2,860円

概念成立から現代の問題群まで、世界的展開を辿り、危機的状況を打開するための道筋を示す。



ミネルヴァ世界史(翻訳)ライブラリー
南塚信吾 / 秋山宣吾 監修 四六判上製



ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

ウォンバットのうんちはなぜ、四角いのか?
とあるウォンバット研究者の数奇な人生

1760円



高野光太郎

本邦初!
「謎のモフモフ動物」の生態が明らかに!

オーストラリアに生息する可愛くて不思議な生き物の魅力のすべてを、日本一詳しい研究者が徹底紹介!

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>